

教育目標(めざす児童生徒像)

夢をもち かしこく やさしく 元気な子をそだてる
 目指す子ども像
 ・夢や目標をもち、最後まで取り組む子
 ・たがいに認め合い、励まし合う子
 ・進んで学習し、確かな学力を身につける子

3つの「つ」を実行できる子
 (あいさつ・たいせつ・あとしまつ)

今年度の指導の重点

- (1) 確かな学力の育成を図り、学ぶ喜びを体験させる。
- (2) 自分や他人、ものを大切に、思いやりをもつことのできる様々な場면을体験させる。
- (3) 夢や目標をもたせ、達成に向け根気強く取り組み、達成の喜びを体験させる。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国
 無解答率が大変低い。問題に粘り強く取り組んでいる。
 国語では、A・Bともに県平均を下回っている。その中で、「関心意欲態度」「読む能力」ではよい結果が出ているが、「言語に関する力」「話す・聞く力」が低い。
 算数では、A・Bともに県平均を上回っている。その中で、領域別では、「図形」が高く観点別では、「技能」「知識・理解」が高い。「技能」はかなりよい結果が出ている。
 領域別では「量と測定」が、観点別では「数学的な考え方」が弱い。
 算数Bでは、記述式の解答において正答率が低い。

県

国語、社会、算数では、各領域・観点において県平均を上回っている。特に社会と算数では、かなりよい結果が出ている。
 算数においては基礎の正答率が高く、領域では「数と計算」、観点では「技能」「知識・理解」の正答率が高い。
 算数では、図形の領域がやや弱い。
 理科では、どの領域も県平均を下回っている。基礎の部分も低いが、特に「活用」の正答率がかなり低い。
 どの教科でも、記述式の解答において正答率が低い。

【学習状況調査の結果】

全国
 生活習慣の面では、よい結果が出ている。「早寝・早起き・朝ご飯」の取り組みが浸透してきている。与えられた課題には真面目に取り組もうとする。分からないことも尋ねて解決しようとしている。家庭学習の習慣も身につけ、宿題は全員がやっている。ただし、予習・復習を行ったり、休日に計画的に学習している児童は少ない。
 自尊感情と規範意識は低い、自分の行動や発言に自信がもてず、考えや意見をうまく伝えられないと思っている。また、積極的に関わったり深く理解をし合おうという面は弱い。規範の判断基準が自身で明確に持てていない。

県
 地域の行事に参加したり、相手や場に合わせた言葉づかいができたりして、社会性が育ってきていると考えられる。家庭での学習習慣が身につけ、全員が宿題をやっている。また、自分で計画を立てて勉強に取り組み、予習や復習ができている生徒も多い。
 テレビ等を長時間視聴している割合は低い。読書の時間は、30分以上行っている割合が県平均や24年度に比べて高い。
 自己肯定感がやや低い。
 穏やかな暮らしぶりであるが、あいさつを進んでしたり、困っている人に進んで関わったりするなど、積極的に人と関わろうとする面が弱い。
 規範意識は育っているが、いけないことははっきりと「ダメ」と言い切れる強さのような面は弱い。また、多くの項目で「どちらかというと～」を選ぶ傾向が強い。自信を持って言い切れる面が弱いように思われる。

成果と課題

学習規律の指導や人間関係づくりへの配慮を通して、落ち着いた学習環境をつくることに取り組んだ結果、真面目に学習に取り組もうとする姿勢が見られる。
 算数の「技能」「知識・理解」でよい結果が出ているのは、「どんどんチャレンジ」「放課後学習」等による基礎・基本の定着を目指した取り組みの成果が表れていると考えられる。
 与えられた課題に真面目に取り組んでいる。わからないことをそのままにしないで、先生や友達にだすねてわかろうとしている。グループ学習や話し合いを意図的に取り入れてきた成果であると考えられる。
 全員が朝食をとり、テレビやゲーム等の時間についても、県と比較してよい結果が出ている。家庭学習も全員ができてい。家庭との連携を大切に行ってきた成果である。
 「話す・聞く力」が弱い。学習面だけでなく、対人関係においても伝える力を育てる必要がある。
 活用力や自ら探究していく力が弱い。
 自尊感情・規範意識が低い。自身を持って意見を伝えたり、自分で判断して行動したりする力が弱い。

課題に対応した改善方法

学校生活のあらゆる場面において、言語活動を大切にする。特に学習では、意見や考え方を話したり、ノートに書いたりする指導を意識的に取り入れる。
 平素の学習において、活用力や探究心を高めるような課題の内容と提示の仕方を工夫する。
 自尊感情を高めるために、児童の活躍の場を設定し、労ったり賞賛したりする場を増やす。また、自分たちの学習や生活を振り返って、目標を持たせたり成長を確かめ合ったりする活動を増やす。
 規範意識を高めるために、細やかでかつ毅然とした指導に取り組む。機会をとらえては個人でしっかりと考えさせ、判断と根拠を話すような指導を取り入れる。
 基礎・基本の定着を図るために現在行っているチャレンジ学習や補充学習を継続させる。また、B問題や読解力テストなどを課題として与え、活用力を高める。
 家庭学習で、漢字や計算の反復練習を音読練習を毎日行う。

取組の検証方法及び検証時期

月に1回管理職が授業を参観し、チェックする。(発表回数、発表内容、学び合い)
 学習の様子をビデオに撮り、振り返りをする。
 児童アンケートを年間5回実施し、学習の理解や学習意欲を把握する。
 学期ごとの市販テスト(まとめ)により検証する。また、算数については、標準学力検査も実施する。

達成目標(数値目標)

ペア学習や班学習で全員が自分の意見を言うことができる。
 「どんどんチャレンジ」(算数)で、全員が学年末までに該当学年の最終問題を終えることができる。
 宿題の提出率が100%にし、継続させる。
 アンケート結果で、「授業は楽しい」「勉強は頑張っている」が85点以上、「発表をしている」が80点以上になる。
 テストにおいて、期待得点または平均点を超える。